

内視鏡診断・治療の進歩:消化管内視鏡診断の新展開

司会 藤田保健衛生大学消化管内科学講座 平田 一郎
虎の門病院消化器内科 矢作 直久

近年の消化管内視鏡診断の進歩はめざましく、カプセル内視鏡やバルーン内視鏡の開発により小腸疾患の診断能は著しく向上した。また上・下部消化管においても、NBI、FICE、AFI、IRIなどの画像強調観察や、顕微内視鏡観察などが登場し、特に中・下咽頭・食道の領域では従来の内視鏡診断学を一変させつつある。今回のシンポジウムでは、これらの新しい内視鏡診断技法の長所・短所を浮き彫りにし、その有用性や適切な使用法を討論したい。